

アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム

オンライン研修会を開催しました！



◆オンラインにて教員研修会の開催

2021年9月20日（月・祝）・21日（火）の2日間、助成校27校の先生方32名が参加して、zoomによるオンライン教員研修会を開催しました。

【研修報告】

1. 新たな視点からの防災・減災教育、教育復興の教訓、学校と地域・外部とのネットワークづくりについての講義から学ぶ

○本プログラムのコーディネーター／講師である及川幸彦先生による、「本研修会の趣旨」、「宮城県気仙沼市における東日本大震災からの教育復興」、「新たな視点からの防災・減災教育の基礎と理論」についてのご講義。

【内容】

- ①「減災」とは自然災害においては被害を完全に防ぐこと（「防災」）が困難であることを前提に、被害をできるだけ最小限に抑えることを目指すことであり、そのために必要な子どもたちの資質を育むことが「減災教育」の目的であること。
- ②「災害の頻度と甚大化、広域化」、「災害が身近に起きるといふ当事者意識の高まり」、「歴史の教訓から未来の災害を予測して備える必要性」、「気候変動による災害リスクの高まり」の観点から、減災教育の重要性、必要性の共有。
- ③持続可能な社会の構築を基盤のひとつとする新学習指導要領にある、育成すべき子どもたちの資質・能力と減災教育で育む資質・能力は整合性がある。また、減災教育を進めていくことが、SDG'sの達成にもつながる。

特に、子どもたちはいつどこで災害に合うかわからない。だからこそ、どこにいても子どもたちが自分で災害から命を守ることができる力、生き抜く力を育む視点にたった防災・減災教育が必要である。という話から、従来の避難訓練のような防災・減災教育だけではなく、子どもたちの主体性を育む防災・減災教育の実践が必要であることを学びました。

○講師の上田和孝先生による、減災教育におけるN助（NPOやネットワークによる支援）の必要性についてのご講義。

【内容】

- ①学校と地域・外部とのネットワークづくりの例として、気仙沼でのNPO/NGOの連携を紹介しながら、減災教育のカギは、学校と地域とのつながりであること。
- ②被災地の復興や防災課題と学校の関係においてNPOが果たす役割。などをお話しいただきました

コロナ禍により災害支援にも変化している中で、N助がこれまで以上に求められているというお話が印象的でした。



各講義において、講師の先生方（上）と参加された先生方（下）と質疑応答も行われました

2. 被災地・気仙沼市の経験と実践から学ぶ防災・減災教育

◆気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館から学ぶ

○震災遺構として被災時の姿を残し、津波の威力や災害の大きさを後世に伝える気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館（気仙沼向洋高校旧校舎）と中継を結び、伝承館の佐藤館長を講師に迎え、「災害の記憶と教訓を伝える」と題し、ご講義いただきました。また、伝承館で語り部として活躍をしている熊谷様との質疑応答の時間もあり、参加者の先生方との活発な意見交換が行われました。

【内容】

- ①佐藤館長からは、東日本大震災の災害の記憶と教訓として、地震・津波発生のメカニズム、東日本大震災の実態をお話しいただきました。将来の見通しをもった何年、何十年という俯瞰的思考で、防災・減災教育に取り組んでほしいこと、そして、安全に環境を守ることも必要なことであり、生活している私たち人間の問題であることも教えてくださいました。
- ②熊谷様からは、「同世代に伝える東日本大震災の記憶」としてお話しいただきました。語り部活動において、防災に関心がない同世代へ大震災の記憶を伝えていくためには、災害はいつ、どこで起こるかわからないのだから、自分事として語り部の話を聞いてもらいたい。そして、日本はたくさんの災害を経験しているからこそ、乗り越えた先人たちの知恵を生かして防災の輪を広げてほしいというお話しは強く印象に残りました。
- ③熊谷様と参加者の先生方との質疑応答形式の対話。熊谷様のこれまでの経験や現在の語り部活動に基づいたお話は、参加者の先生方にとって大きな気付きや学びにつながりました。



熊谷様と参加者の先生方との対話の様子

◆東日本大震災の被災地の経験と実践から学ぶ

○気仙沼市立大谷小学校の榎木先生より、防災学習シートの活用を通じた防災・減災教育のカリキュラムの開発手法と実践についてご講義いただきました。

【内容】

子どもたちが、災害時の避難方法や防災・減災に関する知識を身につけることができる防災カリキュラムの必要性を背景に、防災学習シートを作成したことや、指導計画の作成時や授業時における防災学習シートの活用事例をお話しくいただきました。

○気仙沼市教育委員会の小山教育長より、「東日本大震災からの復興における気仙沼市教育委員会の役割」についてご講話いただきました。

【内容】

気仙沼市の震災直後の教育委員会の動きや、ESD を基本理念とした復興教育の展開、気仙沼市教育大綱、教育大綱の運用、そして、気仙沼 ESD と防災教育についてお話しくいただきました。

○東日本大震災後に災害科学科が設置された多賀城高校の小野校長先生より、カリキュラム編成や、震災の教訓を生かした減災教育の実践についてご講義いただきました。

【内容】

外部機関と連携した実践例、生徒が主体となった「津波波高標識設置活動」や「まち歩きによる震災の伝承」、社会貢献活動など課外活動についての話は、参加した先生方にとって、自校での減災教育カリキュラムや授業案の作成にとっても役立つ内容でした。

○気仙沼市階上小学校より、「小学校における防災・減災教育の実践」についてご授業紹介とご講義をいただきました。

【内容】

①4 学年の担任の先生より、実際の 4 学年の防災マップ作成・発表の授業映像を使用しながら、小学校における防災・減災教育の実践紹介がありました。児童たちからは、「タウンウォッチングにしてみると危ないところが多いことが分かったので、近づかないようにしようと思った」、「自分の通学路以外にも地理を把握できるようになった」など、実際に調べることにより初めて気づいたことが多かったというお話がありました。

- ②安全担当主幹の先生より、階上小学校の防災・減災教育の全体概要についてご講義をいただきました。学校と地域が連携した防災・減災教育に取り組む参加者の先生方にとって参考になる取り組みをお話しいただきました。
- ③校長先生より管理職としての防災危機管理についてご講義をいただきました。ご自身の東日本大震災時の被災体験を踏まえた危機管理についてお話しいただきました。被災時は、防災マニュアルの想定外のことが起こりうるため臨機応変な対応が必要なこと。公助の手が伸びるまで、まずは自助・共助が必要であること。というお話が強く心に残りました。

◆東日本大震災の被災地の中学生の実践発表とディスカッションから学ぶ

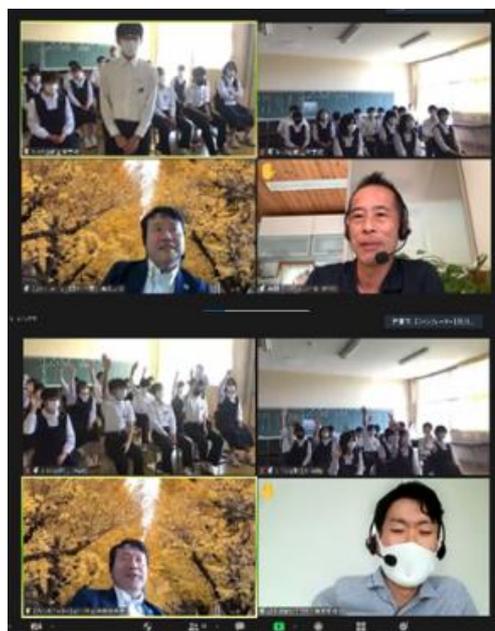
○気仙沼市で防災・減災教育に積極的に取り組んでいる気仙沼市立階上中学校から、「中学校における防災・減災教育の実践」として、3年生の皆さんより実践発表と、参加者の先生方と3年生の皆さんとのディスカッションを行いました。

【内容】

- ①地域の総合防災訓練や、小学校と連携した防災啓発活動、震災遺構での語り部活動など、中学生が主体的に活動し、自分たちの経験や学んだことを、自分たちの言葉でとてもわかりやすく伝えてくれました。
- ②ディスカッションでは、参加校の先生による、「現在中学生の皆さんは、東日本大震災のつらい記憶を、未来の防災教育に生かしていますか」との質問に対して、「現在伝承館で語り部活動をしている。高校生になっても続けていきたい。」「気仙沼市自体が、防災意識をもった町になってほしい。語り部活動を続け、身近な人に活動を伝えていきたい。」「防災学習を通して、日本には安全な場所がないことが分かっている。全国の人に、安全な場所がないことを伝えたい。」など、被災経験を次世代に伝承していきたいという強い意志を感じる回答が、生徒たちからありました。



階上中学校の生徒による実践発表



生徒の皆さんと参加した先生方による対話の様子

3. グループワークで今後の展望を共有する～

○研修会の最後には、参加者の先生方が5つのグループに分かれ、グループワークを行いました。

【内容】

- ①グループワークでは、学校での減災教育を推進するために、研修で学んだことを自校での防災・減災教育の実践にどのように取り入れ、改善していくか。そして、自校で新たに取入れたいことを話し合いました。
- ②グループワーク終了後、各グループの意見を全体に向けて発表しました。あるグループからは、被災した学校の児童・生徒でも東日本大震災の記憶は薄れているのが現状で、人から人へ伝えていくことの難しさを感じている。防災・減災教育を継続するためにも、被災経験がある人から被災経験がない人へ伝承していくことが大切であり、そのためには地域と連携した体制作りが課題である。など、自校における課題や今後の改善点について、積極的な意見交換が行われました。



google jamboard を活用したグループワークの様子

4. 今後の活動

- 参加校の先生方は、本研修会での気づきや学びをいかして、自校の防災・減災教育の実践に取り組みます。
- 参加校の先生方は、2022年2月に開催される活動報告会において、1年間の実践活動について発表します。

■主催：公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

■協力：アクサ生命保険株式会社

■プログラム・コーディネーター：

及川 幸彦 先生（東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター 主幹研究員）

■研修協力：認定特定非営利活動法人 SEEDS Asia、気仙沼市教育委員会

気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館、気仙沼市立階上小学校、気仙沼市立大谷小学校

気仙沼市立階上中学校、宮城県多賀城高等学校、

■後援：文部科学省